

### 3 報告

## 令和 6 年度事業計画

令和 6 年 3 月 15 日 理事会承認

#### I はじめに

沖縄県の令和 6 年 1 月の発表によると、令和 5 年（暦年）の入域観光客数は 823 万 5,100 人となり、対前年比で 253 万 7,300 人の増、率にして 44.5%の増加となっている。暦年の観光客数としては、入域観光客数が 1,000 万人を超え最多を記録した令和元年に対して 81.0%の水準まで回復し過去 5 番目となったとされている。

令和 5 年は、全国旅行支援等の需要喚起策や修学旅行等の回復を受けて、国内観光客が令和元年と同水準まで回復したほか、外国人観光客についても、国際航空路線やクルーズ船の再開に応じて段階的に回復してきた。令和 6 年については、当面の間、回復基調が維持されると見込まれるものの、今後とも円安や物価高等による影響を注視していく必要があるとしている。

国内客については、昨年 5 月に新型コロナが「5 類感染症」に移行し、県内イベントが通常開催されたほか、全国旅行支援等の需要喚起策により、旺盛となった国内の旅行需要を取り込むことができたこと、また、修学旅行等の需要回復、FIBA バスケットボールワールドカップ沖縄開催等もあり、これまで最多であった令和元年を上回り、過去最多となった。

令和 6 年は、コロナ禍を経て高揚した旅行マインドが一旦落ち着くことが見込まれるものの、令和 5 年よりも 3 連休以上の連休が多くなること、デフバレーボール世界選手権大会や沖縄空手少年少女世界大会等の大型イベントの開催、複数のフライ&クルーズが予定されていること等から、堅調に推移すると見込まれるとしている。

また、外国客については、令和 4 年 10 月に水際対策が大幅に緩和されて以降、航空路線やクルーズ船の再開が続いたことで、増加数・増加率ともに過去最多・最大で、過去 6 番目となった。空路客については、一部航空路線の運休があるものの令和元年の約 5 割に回復し、海路客は令和 2 年以来 3 年ぶりの皆増となった。

令和 6 年は、1 月に那覇－高雄（台湾）便の再開、那覇－台北便の増便があり、今後も那覇－上海便増便等が予定されていること、クルーズ船寄港スケジュールが令和 5 年を上回ることで、円安による効果も期待できること等から、さらなる回復が見込まれるとしている。

次に、那覇市では、次期那覇市観光基本計画の策定段階にあり、現在の「那覇市コロナ期観光回復戦略」の実績と評価を踏まえた今後の那覇市観光振興を推進する方向性を検討している。

沖縄の玄関口である那覇市においては、観光客一人当たり市内消費額、延べ市内

宿泊数を伸ばしていく方策が長期的かつ重要な課題であり、行政やOCVB等の関係機関と情報を共有しながら、連携して取り組みを強化していく必要がある。

長らく続いた新型コロナ流行の影響によって経済的に深刻な打撃を受けた観光業に対しては、これまで以上に支援の取り組みについて、行政との連携を密に図りつつ観光協会としての役割を果たさなければならない。

令和6年度については、観光回復期を乗り越えつつ新たな観光発展のステージに向け、種々の観光振興施策、観光消費喚起策やイベントなどについて、会員、行政、関係団体と連携して取り組むこととする。

令和5年3月に登録された観光地域づくり法人(DMO)としては、昨年設置の事業改革委員会(部会)において取り組みの検討に着手できなかったことから、引き続き議論を進める計画である。

さらにデジタル技術を活用した協会業務・サービス、観光ビジネスのDX変革への対応を推進するとともに、英語版を含めた「那覇まちま〜い」の販売及び収益強化、「那覇市観光・文化施設5施設の共通電子入場チケット」の活用推進、体験型修学旅行のコンテンツ創出、那覇観光アンバサダーの活動推進、観光協会ホームページやSNSを活用した積極的な情報提供、加えて、新たな観光コンテンツとして「飲食市イベント」の継続実施などを重点的に取り組むこととし、引き続き安全・安心・快適な観光地としての取り組みの充実・強化を図るべく、各種事業を実施するものとする。

## II 事業計画

### 1. 観光情報誌「NAHA-NAVI」発行事業

那覇市内のマップや首里城公園をはじめとする観光施設及び会員店舗案内を掲載した「NAHA NAVI」の発刊事業。県内の観光施設・宿泊施設・交通機関等に常設し来県する観光客の皆様に活用していただくとともに、県外の旅行社、修学旅行関係者、沖縄観光コンベンションビューロー県外事務所等に随時送付している。令和6年度については、昨年度に続き当該マップの大幅な需要増が予測されるため、年間を通し各所への配付を充足させるよう取り組む。

また、制作費となる広告収入についても、引き続き募集を強化する。

一般用 年3回発行 年間10.5万部

修学旅行用 年2回発行 年間13万部

### 2. 観光情報サイト「那覇ナビ」運営事業（那覇市観光協会ホームページ等）

観光協会公式サイト運用を行い、掲出情報の管理及び新規情報の充実を図る。併せてフェイスブック・Instagram等のSNSを活用した情報発信を行う。

・観光施設情報、イベント情報等の発信

- ・ 県外国外の観光客に訴求する魅力あるコンテンツ情報の充実
  - ・ 観光サポートセンター(観光案内所)の問い合わせ分析に基づく情報発信の強化
3. 県外での誘客宣伝及び那覇観光アンバサダー派遣事業
- 令和5年度に設置した「那覇市観光協会事業改革委員会」の報告を踏まえ、2024年第48代那覇観光アンバサダー2名を選出し那覇観光の情報発信、那覇市との交流連携都市の祭りへの参加など、誘客宣伝活動に鋭意取り組む。
- また、例年参加している「金沢百万石まつり」等に加え、友好都市である川崎市の「市制100周年記念事業」への参加など、県外での誘客宣伝活動の拡大に努める。
4. MICEの取り組み
- 那覇市は市内の公共施設「那覇文化芸術劇場なはーと」を核とした「都市型MICE」誘致促進に向けての取組を進めていることから、当協会として、市行政・会員企業・関連団体・機関と連携した取り組みを重点的に推進する。
5. 「第3種旅行業」登録を活用した企画事業及び観光クーポン券取扱事業
- 引き続き、那覇市域の滞在時間延長を目的に、市内周遊、複数施設入館の利用促進を強化していく。
- また、共通クーポンの利用対象施設の追加や、観光コンテンツとのパッケージ化など、販路拡大に取り組む。
6. 観光まちづくり整備事業「那覇まちま〜い」事業
- 令和6年度からは、コロナにより受入れを制限していた30人以上の大型団体の受入れを再開していく。また、修学旅行の後年度予約受付を再開し、令和7年度以降の集客アップにも繋げていく。
- 那覇まちま〜いの英語版「Naha Walking Tours」については、「那覇まちま〜い」事業に統合し、一体とした運営体制を構築し事業効率を高めることとした。
- また、ガイド養成や情報発信等の業務を見直し、作業効率化及び販売強化に取り組む。特に英語版は基地内への広報強化など図り集客に努める。
7. 那覇市観光案内所・ショップ運営事業
- 日本人観光客及び外国人観光客に観光情報を提供するとともに、本市を訪れる観光客への観光情報の発信機能の充実を図る。日本政府観光局(JNTO)から、外国人観光客に対応する観光案内所としての認定を受けており、海外からの観光客におもてなし対応できるグローバルな観光案内所としてサービスの向上、社内開発した管理システムを活用し、情報の一元管理・データ分析などにより運営の効率化とサービス強化を図ります。

ショップについては、収益改善・那覇の商品のPR強化に取り組む。

#### 8. クルーズ船受入推進事業

現在の那覇港を利用するクルーズ船の岸壁予約状況は(令和6年4月1日~令和6年12月31日)187件(2024年2月8日時点)となっており、寄港するクルーズ船ニーズは依然として高い。今後のクルーズ船の稼働状況を確認しつつ、引き続き外国船客に対する臨時観光案内所の開設・運営に向けて取り組む。

また、令和5年度に新規ボランティア養成講座の受講生を臨時観光案内所に配置して受入れ体制を強化する。

#### 9. 島ぜんぶでおーきな祭「沖縄国際映画祭」

島ぜんぶでおーきな祭「第16回沖縄国際映画祭」は4月20日(土)・21日(日)の2日間で予定されている。

当協会は、沖縄国際映画祭実行委員会の一員として「なは応援団」の事務局を担っており、「なは応援団」が中心となり実施している、沖縄国際映画祭クリーンアップ活動(4月19日金曜日)など引き続き関係機関と連携して取り組みを進める。

なお、同実行委員会の中心的な運営企業となっていた吉本興行株式会社が今期第16回をもって運営から退くことが発表され、当協会としては実行委員会の今後の動向に沿った対応を進めていくこととした。

#### 10. 那覇ハーリー

当協会は歴史と伝統ある「那覇ハーリー」の実行委員会構成団体として、実行委員会の事務局を所管している。

令和6年度の開催は「第50回」の節目につき、那覇ハーリーの伝統行事の継承発展とさらなる観光振興に繋がる事業を組み入れ、多くの県民・市民、観光客が楽しめるイベントとして、市外及び県外等からの更なる誘客強化に取り組む。

今期は、市内所在の高等学校12校を対象とした高等学校ハーリー競漕の開催、市内ホテル連泊促進事業として期間中に連泊予約した対象者にグッズ配布と爬龍船の無料体験優先乗船をセットで提供、また、那覇ハーリー紹介用の映像製作など取り組む計画である。

#### 11. 那覇大綱挽まつり

第54回「那覇大綱挽まつり」は、令和6年10月12日(土)から10月14日(月)を予定。

当協会は実行委員会構成団体として、これまで「市民演芸・民俗伝統芸能パレード」を主管している。

令和6年度は、当協会主管イベントの新たな体制構築、実施に向けた検討を進め、

まつり全体として、那覇市、那覇大綱挽保存会等の関係団体と連携し、安全な祭り運営を協議しながら、多くの県民・市民、観光客が楽しめる企画と誘客に取り組む。

なお、前年度に取り組んだ飲食イベント「黄昏市」については、この那覇大綱挽まつりに関連付けて賑わい創出イベントとしての実施を検討していく。

#### 12. 琉球王朝まつり首里

「琉球王朝まつり首里」は琉球王朝の栄華を伝えるまつりとして、首里振興会が主体となって実行委員会方式で実施されており、関連イベントを含め例年多くの誘客に繋がっている。当協会は「琉球王朝まつり首里」の実行委員会構成団体として、首里振興会および関係団体と協力してイベントの広報強化に取り組む。

#### 13. NAHAマラソン

NAHAマラソンは、NAHAマラソン協会が主催し、関係団体で構成する実施本部が中心となり実施されている。当協会は構成団体の一員となっており、令和6年度も関係団体と協力連携してNAHAマラソンの更なる発展と国内外からの誘客促進に取り組む。

#### 14. プロ野球「読売巨人軍春季那覇キャンプ」

読売巨人軍那覇キャンプは令和6年2月で14回目を迎えた。今後さらなる那覇キャンプの発展、継続を後押しするためにも読売巨人軍那覇協会の活動強化は不可欠である。

那覇キャンプを継続実施していくために、球団との協力関係を深めていきつつ、市民・事業者を含む那覇市全体で盛り上げていけるよう、読売巨人軍那覇協会会員の新規獲得を目指し取り組む。

#### 15. 観光地域づくり法人DMOとしての取り組み

地域づくり法人地域DMOとしての取り組みについては、

- ① 着地型商品の造成・販売
- ② クルーズ船受け入れ(臨時観光案内所開設・運営)強化
- ③ 誘客宣伝事業アンケート調査などの重点化

の取り組みを進める。

特に②クルーズ船受け入れについては寄港後に観光客が県内各地(特に南部方面)を訪れることが多く、他地域の観光協会や観光施設と連携した取組が必要となるが、来沖する観光客の満足度向上につながるよう南部地区の情報共有と南部広域外国語パンフレット制作など強化する。また、この南部広域外国語パンフレット制作については、南部広域市町村圏事務組合から一定の助成が可能とのアナウンスがあることから、南部地区観光協会協議会を先導して製作に取り組むこととする。

事業内容、組織体制及び執行体制の強化については、引き続き事業改革委員会などで議論して検討を進めていく。

#### 16. 那覇市観光協会の会員拡大と組織の強化事業

那覇市観光協会は、那覇市の観光事業の振興、観光誘客と交流、地域経済の発展に寄与することを目的としている。観光関連業をはじめ、各産業と連携のもと、本市観光振興の更なる振興を図る観点から会員制度を設けている。

令和6年度も引き続き会員拡大を目指し、有益情報の提供や会員広告などのインセンティブの検討・充実、行政の支援事業等の連携実施など、会員がメリットを享受できる取り組みを推進していく。

※ 現会員数(令和6年1月末現在) : 343社

#### 17. 那覇市観光協会のSDGsの取り組み

世界的にもSDGs脱炭素地域づくりの推進など、国や自治体をはじめ多くの企業・団体が取り組みを進めている中で、当協会としても、サステナビリティを意識した「住んでよし」「訪れてよし」持続可能な地域づくり実現に向けた取り組みの推進、地域社会発展への貢献が求められており、会員企業・行政・関係団体と連携して取り組みを進めていく。令和6年度は、環境美化活動として清掃活動を2回実施する予定である。